

令和7年度外部評価会 集計表(農業者用)

所属名: 南薩地域振興局農政普及課指宿市十二町駐在駐在

課題名① 指宿地域の環境負荷を低減した園芸・畜産の推進						
項目	評価の視点	評価結果(人)			外部委員からの 意見・提言	意見・提言等に対する改善策や 普及指導計画への反映等
		適当	概ね 適当	要 改善		
課題の 設定	①農業者や地域が必要とする課題であるか	4				
対象の 選定	②課題に対して対象(農業者, 地区)の選定は適切であるか	2	2			
活動体制・活動 方法	③関係機関とうまく連携して活動しているか	4				
	④活動(活動方法, 時期, 手段)は適切であるか	3	1			
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか	3	1			
活動の 成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか	3	1			
活動の 波及性 と改善	⑦他の課題や他農業者, 地域への波及性があるか	2	2			
	⑧結果が十分でないものは今後の対策が考えられているか	3	1			

令和7年度外部評価会 集計表(関係者用)

所属名：南薩地域振興局農政普及課指宿市十二町駐在駐在

課題名① 指宿地域の環境負荷を低減した園芸・畜産の推進						
項目	評価の視点	評価結果(人)			外部委員からの 意見・提言	意見・提言等に対する改善策や 普及指導計画への反映等
		適当	概ね 適当	要 改善		
課題の 設定	①課題は地域の農業振興上、重要な課題であるか	3				
対象の 選定	②課題に対して対象(農業者、地区)の選定は適切であるか	3				
活動体制・ 活動方法	③関係機関と連携して活動しているか	3				
	④活動(活動方法、時期、手段)は適切であるか	3				
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか	3				
活動の 成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか	3				
	⑦指導対象が積極的に課題解決にあたるようになったか	3				
活動の 波及性 と改善	⑧他の課題や他農業者、地域への波及性があるか	2	1			
	⑨結果が十分でないものは今後の対策が考えられているか	3				

「環境負荷を低減した 野菜栽培の普及推進」 ～オクラ産地の育成～

南薩地域振興局 農政普及課 指宿十二町駐在
野菜普及グループ

農業改良普及指導活動全体計画（令和7年度）

<取り組み課題・内容>

(1)ソルゴー・そばを利用した露地IPM技術の拡大 (2)ハウスオクラの天敵利用技術の普及推進

- ア アブラムシ防除技術の普及支援
- イ コナジラミ防除技術の検討
- ウ 新たな害虫に対応した技術の検討



農業改良普及指導活動全体計画（令和7年度）

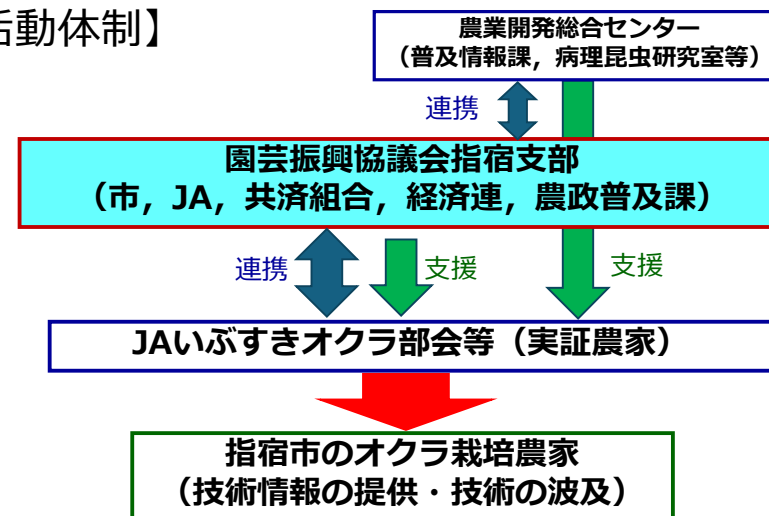
課題名：指宿地域の環境負荷を低減した園芸・畜産の推進

- 1 農業環境負荷低減組織の活動支援
 - (1)協議会の運営支援
- 2 環境負荷を低減した野菜栽培の普及推進
 - (1)ソルゴー・そばを利用した露地IPM技術の拡大
 - (2)ハウスオクラの天敵利用技術の普及推進
 - ア アブラムシ防除技術の普及支援
 - イ コナジラミ防除技術の検討
 - ウ 新たな害虫に対応した技術の検討
 - (3)畑かん水を活用した土壌還元消毒法の普及拡大
 - (4)バイオスティミュラント(BS)資材の検討

活動の対象と活動体制

【対 象】 指宿市ハウスオクラ栽培農家（495戸）
露地オクラ栽培農家（1,273戸）

【活動体制】



取組 1 露地IPM技術の拡大の実態把握

圃場実態



関係機関協力によるIPM実態調査

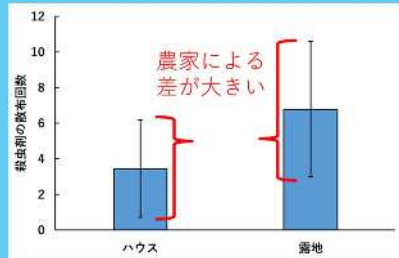


IPM実施農家間でも天敵発生数に大きな差

農薬実態



関係機関協力で農薬散布履歴の整理



IPM実施農家の技術力に大きな差

取組 2 アブラムシ防除技術の普及支援

新規IPM取組
農家への
サポート

関係機関（市、JA、農政普及課）
を3班に分けIPM新規取り組み農家を中心に
IPM巡回を実施（1回/2週）

関係機関協力でハウスの状況確認

バンカーの状態
天敵放飼の状態
害虫の発生状況

バンカーの成功が
ハウスIPMで最も重要



取組 1 露地IPM技術の拡大の改善対策

改善対策



IPM実施展示ほの設置



関係機関+指導農業士でIPMの方向性を検討



ニューファーマー講座等でのIPM研修



農業高校で病害虫研修（次世代育成）

取組 2 アブラムシ防除技術の普及支援

実態把握



天敵の餌であるバンカー状態確認



放飼した天敵の定着確認

改善対策

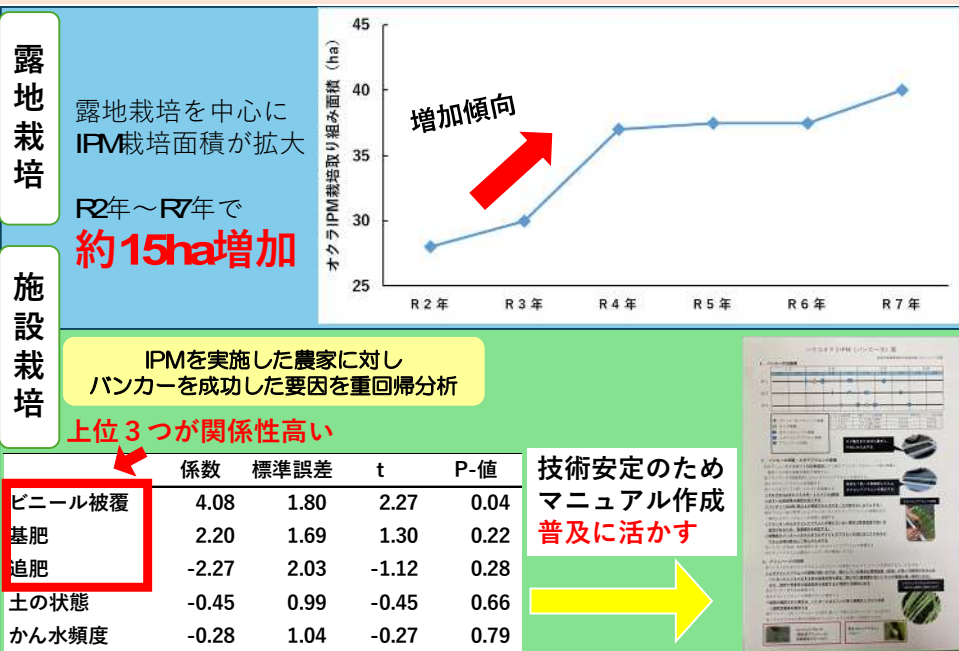


アンケート結果を基に要因解析



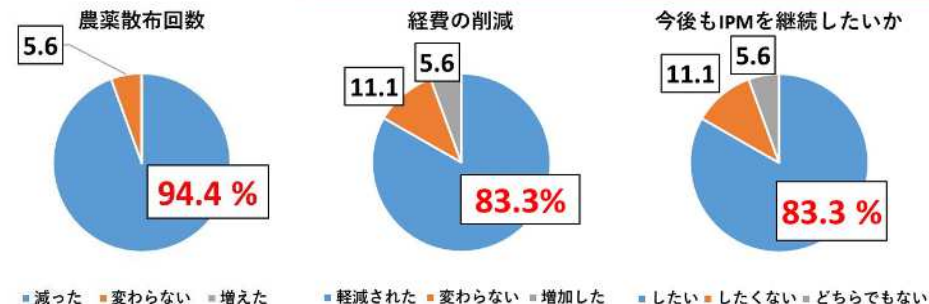
IPMハウスの現地検討会実施

取組1・2の成果 露地・ハウスIPM技術の拡大



取組2の成果 アブラムシ防除技術の普及支援

ハウスIPM実施農家18名に対してアンケートを実施



8割以上の農家が、**労力＋コスト低減**

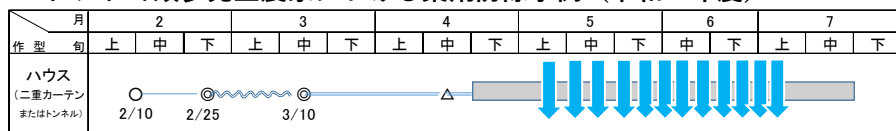
取組3 コナジラミ防除技術の検討



指宿のオクラで6～7年前から
コナジラミ類が発生

施設栽培で被害が拡大
品質低下・収量減に繋がる
最大で収量が**4割減**となる

コナジラミ類多発生農家における薬剤防除事例（令和6年度）



オクラは早朝散布できない
ため、**散布が非常に負担**

散布農薬
↓
コルト顆粒水和剤
ムシラップ、エコピタなど

取組3 コナジラミ防除技術の検討

オクラはマイナー品目
登録農薬が**少ない**
＋
コナジラミ類は
薬剤抵抗性の発達が早い

化学的防除（農薬）ではなく
生物的防除（天敵）が必要



スワルスキーカブリダニ

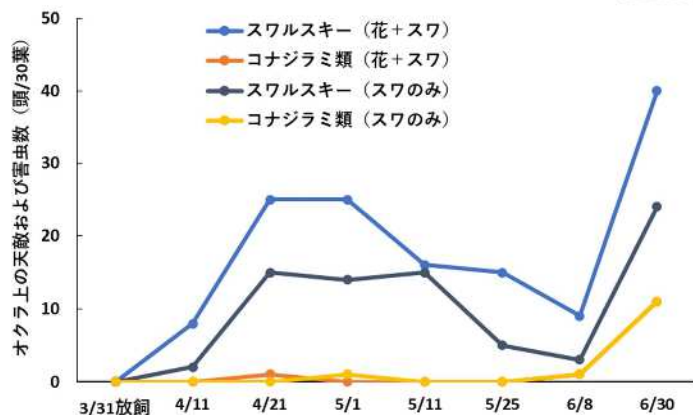
果菜類（ナス、ピーマン）ではコナジラミ対策として
すでに導入、**トマトでは導入失敗**（定着せず）
餌となる害虫が未発生でも**代替餌である花粉の存在により定着が安定**

天敵放虫タイミングは害虫0発生が基本

施設オクラでは栽培初期に**開花が少なく**、花粉を代替餌とする
のは現実的ではない

取組3 コナジラミ類防除技術の検討

スイートアリッサム+オクラの混植区
(餌としての花粉がある)
オクラのみ単植区
(花粉がない)

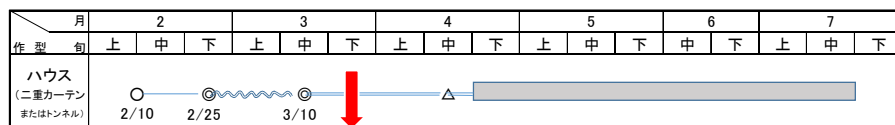


花粉なしでも
問題なし？

↓
実証農家を
増やして検討

取組3の成果 コナジラミ類防除体系の検討

新しい防除体系 (生物的防除)



コナジラミ類に対する農薬散布回数 1 2 回 → 1 回

(従来の防除体系)

薬剤散布に係る労働費

43,800円 (1825円/h × 2h × 12回)

農薬購入費

14,400円 (平均約1,200円 × 12回)

(新しい防除体系)

912円 (1825円/h × 0.5h × 1回)

15,320円/10a

差引で経費削減効果 41,960円/10a

何よりも高温時期の防除作業の負担が軽減される

あわせて、防除効果の違いまで考慮すると・・・
2割減収すれば約50万円の損失 (2500kg/10a × 2割 × 1000円/kg)

取組3の成果 コナジラミ類防除技術の検討

天敵・害虫数を
科学的に分析

※グラフ内の異文字間には統計的な有意差あり

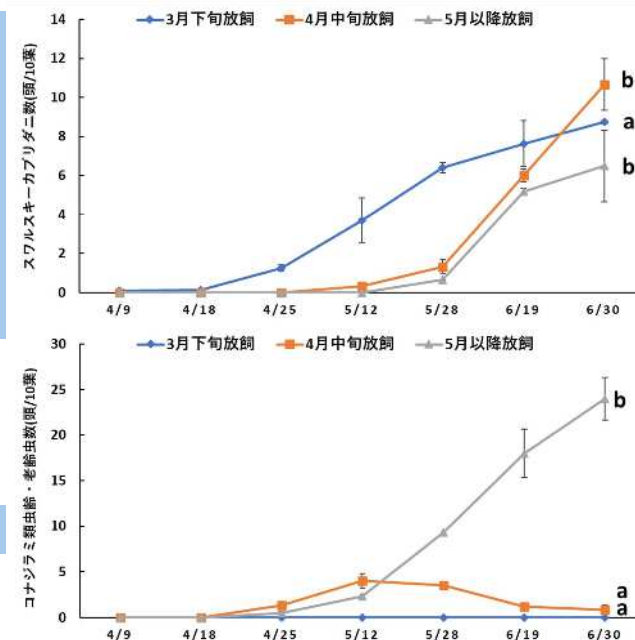
放飼時期

3月：防除◎天敵◎

4月：防除◎天敵○

5月：防除△天敵○

個体数 + 0.5にBox-cox変換
混合モデルにより分散分析
Tukey-HSD検定により解析



得られた成果をまとめると



取組1・2

- ①IPMの実態を整理し、関係機関で今後の方向性を固めた
- ②ハウスオクラのIPM実施の安定化のため、マニュアルを作成
新規就農者等へ安定した技術の普及拡大へ

取組3

- ①農薬に頼らないコナジラミ類防除技術の確立
- ②スワルスキー導入により労力+コスト削減を実現

残された課題と今後の取組み

これらを次年度の計画を反映して取り組む

1 露地オクラ

- ①高いIPM技術の普及拡大
- ②フタテンミドリヒメヨコバイおよびチョウ目害虫の防除

2 ハウスオクラ

- ①IPMマニュアルを用いた技術の安定化・新規拡大
- ②コナジラミ防除に対して天敵活用をベースとした技術の定着化
- ③新たな害虫（カイガラムシ類）は継続して発生状況を整理・対策等の周知

